



# 街中の鳥を観察して環境を知ろう

2016年10月19日

千葉県生物多様性センター

中込 哲

# なぜ鳥なのか

- 体が大きく、よく動くため発見しやすい
- 昆虫や植物にくらべ種類が少ないため、調べやすい
- 事業所などの敷地と周辺を行き来しているため、地域環境と敷地内の環境を結びつけて考えることができる
- さまざまな環境ごとに違う種が生息しているため、その地域の環境はどのような現状にあるか見極めやすい

**一般に向けての広報がしやすい**

# 鳥は環境を計るものさし

- 一年中みられる「留鳥」が子育てができるか
- 子育てができるということは、エサとなる動植物など多種多様な生きものが生息している

## 課題

- 種類がわからない
- 飛んでいってしまう
- 普通種なら観察しやすい！



# あると便利な道具

- 双眼鏡の選び方 →最初は8倍、慣れたら10倍
- コンパクトデジカメ→光学20～40倍くらい
- 図鑑 →高価なものでもなくてもいい



# 航空写真(千葉県松戸市)

- 1. 工業団地
- 2. 住宅地、団地
- 3. 畑
- 4. 公園
- 5. 水辺環境



# 工業団地でも見られる鳥

- ドバト(外来種)
- ハシブトガラス
- ハクセキレイ

人の生活にかかわっている

人を利用している

人との距離を計っている

**どのような環境でも見られる種**

# ドノバト(外来種)



**都市化した環境にも適応**

# ハシブトガラス



都市化した環境にも適応

# ハクセキレイ



**都市化した環境にも適応**

# 住宅街、団地などで多くみられる鳥

- キジバト
- スズメ
- ムクドリ
- シジュウカラ

人家の近くに生息している  
人を恐れない個体が多い

**巣作りも人家近くでおこなう**

# キジバト



住宅地や公園など人家の近くで見られる

# スズメ



住宅地や公園など人家の近くで見られる

# ムクドリ



住宅地や公園など人家の近くで見られる

# シジュウカラ



住宅地や公園など人家の近くで見られる

# 畑でよくみられる鳥

- ハシボソガラス
- チョウゲンボウ

開けた環境を好む鳥が生息する  
人の接近に敏感

**農耕地が広いほど数が多い**

# ハシボソガラス



農耕地や河川敷のような広い環境で見られる

# チョウゲンボウ



農耕地や河川敷のような広い環境で見られる

# 雑木林に生息する鳥

- コゲラ
- ツミ
- オオタカ

一度減少したのち、都市近郊に再進出してきた種  
個体によって警戒距離が異なる

**環境の指標として使われる事が  
多い**

# コゲラ(右上は巣穴から顔を出す成鳥)



雑木林や植木の多い公園などでみられる

# ツミ(右上はオス成鳥)



雑木林や植木の多い公園などでみられる

# オオタカ(右上は幼鳥)



雑木林や植木の多い公園などでみられる

# 水辺に生息する鳥

- カワセミ
- カルガモ

魚や水生昆虫を食べる種が多い  
餌付けをされるとすぐ人になれてしまう

**水質の変化に敏感**

**外来生物の影響を受けやすい**

# カワセミ



モツゴなど小魚の多い池や河川で見られる

# カルガモ



近くに植え込みがある池や、水田で見られる

# まとめ

- 都市には都市に適応した種が生息している
- 観察種数が多いほど「豊かな環境」と言える
- 水鳥では、水質や外来生物の影響を受けやすい
- 猛禽類がみられる環境は豊かな環境
- とくに多くの鳥が子育てできる環境が重要
- スズメのようななじみ深い鳥でも減少傾向にある
- 身近な場所で暮らしている鳥は、想像以上にたくさんいる
- 季節によって種類が変わる



ありがとうございました